

追加指定の重要文化財

名 称	しんしゅうほんびょうひがしほんがんじ 真宗本廟東本願寺	棟 数	14 棟
所 在 地	しもぎょうくからすまどおりしちじょうあが とさわちょう 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町		
所 有 者	宗教法人 真宗大谷派		
指定基準	(一) 意匠的に優秀なもの (三) 歴史的価値の高いもの		
建 物 名	構 造 形 式	建 立 年 代	
ほうぞう 宝蔵	土蔵造、建築面積五六・八三平方メートル、二階建、宝形造、東面庇付 唐破風造、本瓦葺	明治 5 年 (1872) ／昭和 60 年 (1985) 移築	
おおげんかん 大玄関及び おおしんでん 大寢殿	大玄関及び大寢殿よりなる 大玄関 建築面積四五〇・六二平方メートル、一重、入母屋造、棧瓦葺 大寢殿 建築面積八〇五・〇六平方メートル、一重、入母屋造、棧瓦葺	慶応 3 年 (1867)	
しろしょいん 白書院	建築面積三五三・五六平方メートル、一重、入母屋造、棧瓦葺 附・渡廊下 一棟 建築面積五〇・八五平方メートル、唐破風造、棧瓦葺	明治 44 年 (1911)	
くろしょいん 黒書院	黒書院、御居間、御次之間よりなる 黒書院 建築面積二四六・五〇平方メートル、一重、入母屋造、北東便所及び北面西端廊下附属、棧瓦葺 御居間 建築面積一一四・九四平方メートル、一重、入母屋造、北面東端便所附属、棧瓦葺 御次之間 建築面積七七・〇四平方メートル、一重、切妻造、北面下屋付廊下附属、棧瓦葺	明治 44 年 (1911)	
みやごてん 宮御殿	建築面積二四三・七〇平方メートル、一重、入母屋造、東面北側便所及び北面東端廊下、西面北面便所付廊下附属、棧瓦葺	明治 34 年 (1901)	
おうかてい 桜下亭	建築面積一八〇・一〇平方メートル、一重、入母屋造、南面東端及び西端廊下附属、棧瓦葺 附・便所 一棟 建築面積四・九六平方メートル、切妻造、杉皮葺	昭和 14 年 (1939) 移築	

のうぶたい 能舞台	舞台、橋掛、鏡の間よりなる 舞台 建築面積五九・四一平方メートル、一重、切妻造、背面後座下屋付、棧瓦葺 橋掛 建築面積二三・三五平方メートル、一重、両下造、棧瓦葺 鏡の間 建築面積二一・四九平方メートル、一重、西正面切妻造、棧瓦葺	明治13年 (1880) ／昭和11年 (1936) 移築
ぎじどう 議事堂	建築面積五一二・〇一平方メートル、一重、入母屋造、棧瓦葺	昭和10年 (1935)
おもてこしょいん 表小書院	建築面積一九六・三〇平方メートル、一重、寄棟造、東面北端下屋付廊下附属、東面南端及び南面廊下附属、棧瓦葺	昭和10年 (1935)
きくもん 菊門	四脚門、切妻造、前後唐破風付、両脇袖塀附属、檜皮葺	明治44年 (1911)
げんかんもん 玄関門	三間一戸薬医門、本瓦葺、両脇袖塀附属、潜戸付	明治44年 (1911)
じむしょもん 寺務所門	一間薬医門、両脇袖塀附属、潜戸付、本瓦葺	明治44年 (1911)
ないじもん 内事門	長屋門、建築面積二三〇・〇二平方メートル、二階建、入母屋造、唐破風造両出番所附属、本瓦葺	明治15年 (1882) ／明治44年 (1911) 移築
じゅうさんそうどぞう 十三窓土蔵	土蔵造、建築面積三一七・五四平方メートル、二階建、寄棟造、本瓦葺、南面及び東面庇付、棧瓦葺	明治15年 (1882) ／明治43年 (1910) 移築

[解説]

— 上質な意匠と格式を備えた近代随一の大規模寺院殿舎群 —

令和元年度に重要文化財に指定された御影堂などの堂舎群に追加して、大玄関及び大寝殿などの殿舎群と、境内を画する諸門などを新たに指定する。

幕末の大火で焼失した後、堂舎群とともに明治期から昭和期にかけて整備された殿舎群は、規模の大きな堂舎に付随する公の施設、応接施設として機能する。上質な意匠と格式を備えた近代随一の寺院建築群として高い価値を有する。

特に、亀岡末吉による新奇で優美な意匠を持つ白書院・黒書院・菊門や、円山応挙の障壁画を飾る瀟洒な近代数寄屋建築である桜下亭、宗議会という新たな体制を体現した議事堂などは、寺院建築における近代の和風意匠の充実や近代的な機能の付与を示す。近世以来の境内構成を受け継ぐ本山寺院が、近代化を受容し、重層化した過程を知る上で歴史的に重要である。



境内全景



大玄関及び大寝殿 外観



黒書院 一之間

写真はすべて、真宗大谷派（東本願寺）提供